

資源循環の促進

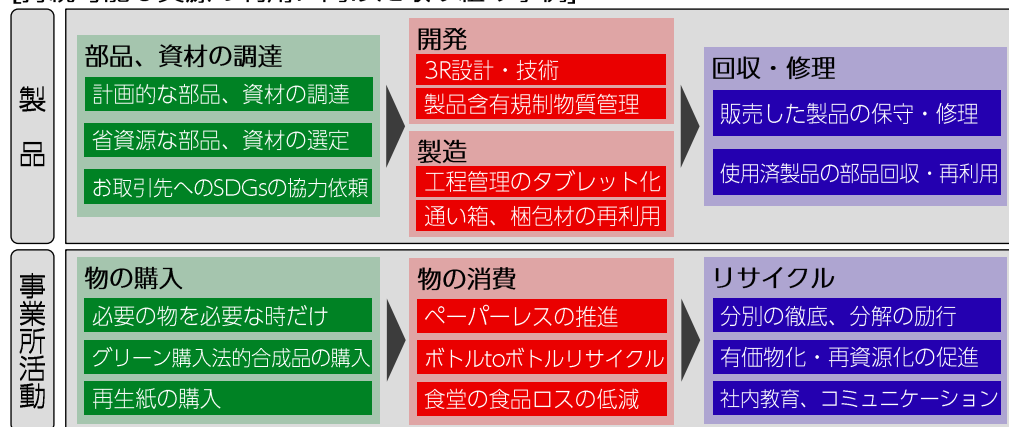
「資源循環」を重要な環境問題の一つと認識し、ビジネスと事業所活動の両面で資源循環に配慮した取り組みを実施しています。

富士通フロンテックグループの資源循環への取り組み

当社グループのビジネス、とりわけ製品においては「調達」→「開発」→「製造」の各段階で施策を行うにとどまらず、お客様へ製品を販売した後「回収・修理」も実施することにより、ライフサイクル全体で資源循環に資する活動を推進しています。事例として「開発」では、製品の質量・体積の削減や搭載部品点数の削減、バイオプラスチック素材の一部適用など。「製造」では、工程管理のタブレット化による紙使用量の削減や通い箱化、梱包材の再利用など。「回収・修理」では、主に保守・修理による製品の長寿命化や使用済製品の部品回収・再利用に取り組んでいます。

一方、事業所での活動においては「物の購入」「物の消費」そして廃棄時の「リサイクル」の観点で、資源循環の促進に寄与する取り組みを展開しています。例えば「物の消費」では、オンライン会議システムや会議用大型モニターなどを活用した紙を使用しない業務スタイルが社内に定着しています。

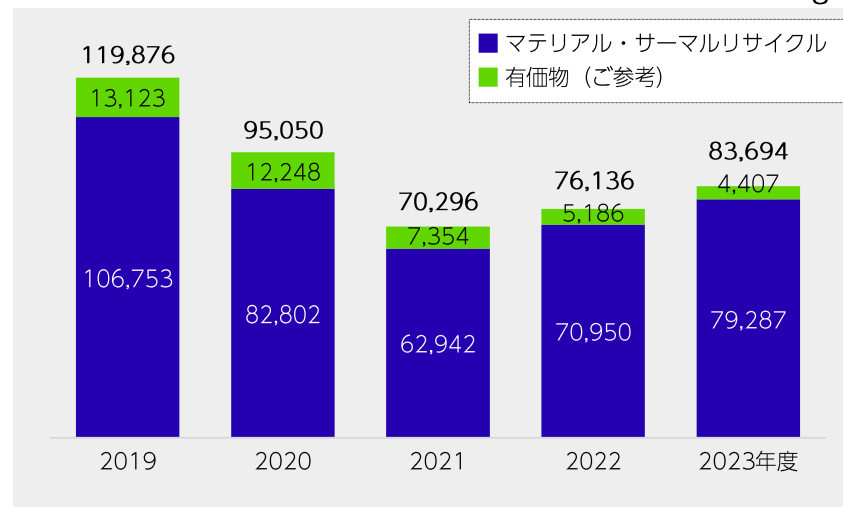
[持続可能な資源の利用に向けた取り組み事例]



プラスチックごみ問題への対応

海洋汚染や気候変動などの環境問題に負の影響を及ぼすプラスチックごみ（プラごみ）の削減に取り組んでいます。これまでに、プラスチック製部品や梱包材などの再資源化をはじめとした施策を実施してきました。近年は、2022年4月に施行された「プラスチック資源循環促進法（プラ新法）」の理念に基づき、拠点間の連携強化や社内教育の充実などを通じてより積極的にプラごみの削減を推進しています。

プラ新法に基づく当社のプラスチックリサイクル状況（単位：kg）



対象：本社・東京工場、新潟工場、熊谷SSC、工事監理部

プラスチックごみ削減に向けた取り組み

具体的なプラごみの削減施策の事例として2024年7月から飲料メーカー様と提携し、社内で廃棄されるペットボトルについて「ボトルtoボトル」（使用済みペットボトルを新たなペットボトルに再生）方式へ切り替えました。また、新潟工場では、ATM (FACT-X) の梱包材について、段ボールと発泡スチロールを併用していた設計から、すべて段ボールで賄う設計に改良しました。結果、従来は発泡スチロールが付いていたために再資源化が困難でしたが、当改良により全て紙資源として再資源化が可能となりました。



梱包材の改良事例 (新潟工場)